

ネコ実験の資料提出

水俣病裁判 チツソが反対尋問続行

験が載せられなかった経過については尋問はされた。
なお水俣市に滞在して水俣病をとり続けているフリーカメラマンのユージン・スミス氏はこの日も熊本地裁を訪れ、開廷前、裁判所前庭で患者たちと話したり、集会のもようを撮影、裁判も熱心に傍聴していた。

いる」と追及した点にふれ、この実験は資料の中にある、として同実験を隠したという原告側の追及に反論した。

しかし肝心のネコ四〇〇号の実

学部教授に説明した」と述べた。
またムラサキ貝から有機溶剤で有機水銀を抽出しようとした実験について、原告側は第一回口頭弁論で「チツソは三十四年十月に発表した『有機水銀説に対する見解』の第一報では同実験を載せながら、第二報では故意に除外して

水俣病裁判の第二十四回口頭弁論は、十五日午前十時から熊本地裁民事三部斎藤次郎裁判長係りで続開、前日に続き元新日窒水俣工場長西田栄一氏(左)と前チツソ監査役・東京都杉並区善福寺に對する被告・チツソ側の反対尋問が行なわれた。

被告側はチツソが三十四年五

通訳を通じ渡辺栄蔵さんと話すユージン・スミス氏(中央すわっている人)

月、食品衛生調査会水俣食中毒部会(齋藤健之部会長)の求めに応じて作成した水俣病研究資料を証拠として提出、同資料に三十二年十一月から三十四年三月までのネコ実験二百三十例が網らされていることを確認した。これはチツソがネコによる「秘密実験」を行っていたとする原告の主張に對する反証としてあげたもので、西田証人は「この資料は、工場水俣中毒部会の委員である熊大の医・理

